

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(北ユニット:あかり通り)

事業所番号	2794200622		
法人名	株式会社WAN		
事業所名	グループホームお多福の家		
所在地	茨木市 真砂玉島台10番26号		
自己評価作成日	令和2年7月29日	評価結果市町村受理日	令和2年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [o.jp/27/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_unei=true&Jigyosy](http://o.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_unei=true&Jigyosy)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGBビル大阪 4階		
訪問調査日	令和2年8月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者様一人一人にとっての「我が家」であるように、「家」という点にこだわりその人がその人らしく生活を実現できるようにケアを行っていけるように実践。  
 ・「家」での生活にプラスし、認知症ケアの部分においても「個性」を活かしたケアを実践。  
 ・幼老一体型施設である点を活かし、世代間交流が日常的に行える。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医師が代表を務める株式会社WAN(本社)が運営する開設3年目のグループホーム(ホーム)である。茨木市駅からバスで10分、さらに徒歩5分の静かで落ち着いた街にある2階建ての1階がホームで、2階には放課後等デイサービス・児童発達支援施設がある複合型施設で「お多福の街」と称している。幼老一体の交流が実現しているのが特徴である。ホームでは、本社の支援の下、管理者が介護に意欲的で豊かなアイデアとIT技術を活かし、経営基盤ツールの活用、コロナ禍でのWeb面会の開始、Instagramによる日々の活動紹介やペーパー作業削減など業務改善を進め、職員の力をより利用者への寄り添いに向かわせている。管理者曰く、「お多福の街はまだまだ伸びしろが大きい」と、ホームの活動が今後ますます充実されるかも知れない。(注:現在はコロナ禍で一部活動が自粛中である。)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・スタッフ共に理念の共有をした上で、利用者様にとってより良い認知症ケアを行えるよう悩みや疑問等を十分に共有し実践に繋がられている。	本社の理念と行動指針であるクレドを併せ持ち、ホームでの日々のケアに活かしている。理念の「慈しみと暖かさに包まれながらの生活の提供」は、職員とのヒアリングで周知が確認できた。クレドは名札や名刺の裏に印刷され、1日毎の行動指針を朝礼で唱和し周知している。ホームページやパンフレット等にも理念が記載されているとなお良いのではと思われる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、自治会への加入を再度試みた。結果、9/1～賛助会員という形ではあるが自治会へ加入する事ができた。回覧板なども回ってくる為、地域の情報なども把握できるようになった。また、「秋祭り」を開催し地域へ発信。参加を募り我々が日々どういった事を行っているのかを知ってもらえるような機会を設けた。	自治会に賛助会員として加入が実現し、地域との交流が始まり、夏祭りや清掃活動等への誘いを受けるほか、ホーム主催の秋祭りには近隣の住民に参加を呼びかけた。近くの府立高校からは約40名の生徒が交流に訪れた実績もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は上記にある通り、「秋祭り」を開催しその場を通じて地域の人々へ向けて認知症の人への理解や支援方法などの取り組みを行えた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催した時には、ご家族様からの意見などをサービス向上に活かす努力を行っている。年明け後、新型コロナウイルス対策の為、1月・3月・5月については中止となる。	運営推進会議には毎回多くの利用者家族、地域包括支援センター職員、本社・ホーム関係者が参加している。ホームから、トピックスを含めた最新の状況をスライド等を使い説明し、その後家族との質疑応答、地域包括職員の評価や地域情報の伝達等を行っている。3・5月の開催はコロナ禍のため市と相談のうえ中止、7月は延期の後、8月に開催した。	議事録は、ホーム玄関に備付け閲覧可能となっている、ホームの現状を家族等に多面的に知ってもらい良いツールでもあるので、定期便に同封し送付する事が望ましい。また、地域包括支援センター職員だけではなく、地域代表者や知見者等の参加を増やす努力の継続も望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括よりご紹介していただいた方が、今年度入居に繋がった。今後も協力関係をしっかりと築けるよう取り組む。	市の窓口である長寿介護課とは、必要に応じ申請や報告、連絡、相談を行っている。また、地域包括支援センターとは運営推進会議等を通じ良好な関係が維持できている。その他、市のケア倶楽部からの情報入手、ケアプランセンターや同業者のグループホーム連絡会との交流を通じ、市の窓口とは直接・間接に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3カ月に1度、身体拘束・人権擁護高齢者虐待防止委員会を開催しスタッフ全体に周知を行っている。現状、身体拘束は行わないケアに取り組んでいるが、不適切な対応など見受けられた場合にはその都度委員会等に議題として話し合いを実施するよう取り組んでいる。	研修、委員会の定期開催や職場で身体拘束をしないケアの実践に努めている。現在、身体拘束の実例は無いが、研修や委員会で声掛けを含め何が拘束に当たるのかを具体的に理解するよう努めている。玄関は安全のため施錠しているが、デイサービス等の児童・生徒の入退館時、ホーム内に自由に立ち寄り利用者との挨拶を交わすなど閉塞感は感じられない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様、委員会を開催し日々のケアの中で虐待に繋がりそうなケアはないか確認を行いながら、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修やカンファレンスの時間を設け、その中で権利擁護やそれに付随する制度について理解を深められるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明等については、しっかりと行っているが日々の中で出てくる疑問等についてもその都度説明を行い、理解・納得していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で聞き取りを行った上で、管理者やCM初めスタッフと共に検討を行い、運営に反映できるように実施し、外部者へも公表できるように努めている。コロナウイルスの影響で、聞き取りなどできない場合も電話連絡やメールなどの手段を用いて可能な限り聞き取りを行えるよう努めている。	利用者家族の月1回以上の訪問(契約書に記載)時に、また比較的多くの家族が参加する運営推進会議において意見・要望を聞き取っている。利用者の意見・要望は本社やホーム職員間で共有のうえ、必要な対応の検討を行い日常の運営やケアに活かしている。その他の家族についてもホームからの電話やメール等にて意見・要望の聴取に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	概ね、月に1度ユニット毎のカンファレンスや適宜面談を実施しその中で出た意見や提案をまとめ管理者から代表者へ報告を行った上で検討し反映できるように努めている。	職員の意見・提案は、毎月開催の各ユニットカンファレンスのほか、管理者が介護現場に入り職員と協働する機会や必要に応じ設定する個別面談で聞き取っている。ホーム内で対応が可能な案件は、速やかに日常の運営に活かしているほか、本社との相談が必要な事項については、管理者から本社の代表に報告し、対応につき面談のうえ相談している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々、スタッフからの声を聴きとれる様コミュニケーションを図り、必要に応じて適宜面談等の設定などを行い集約。必要に応じて代表者に伝え面談を行えるよう整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のケアへの考え方や捉え方・介護技術などスタッフに応じた力量などを把握し外部研修・内部研修・勉強会またはそのスタッフに応じた個人的な指導を行えるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	茨木市ケア倶楽部などから情報把握に努め、同業者とのコミュニケーションの場にも出向き、ネットワークづくりなどを積極的に行えるよう努めている。コロナウイルスの兼ね合いもあり、今年度に入ってからは、様子を見ながら取り組んでいる状況。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活する中で、家族様からの情報収集などもしっかりと行い、本人にとって安心した居心地の良い安心できる場所の確保ができるよう関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事、不安な事について要望があった場合ではなくこちらからも声掛けを行う様に努めて、よりよい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在、会社内に訪問看護ステーションも設立されたので今後はグループホームとしては、弱い「医療面」なども入居時からフォローアップしていけるように対応を行っていく予定。その他のサービスについても適宜見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフ一人ひとりが、お多福の家のコンセプトやグループホームとしての在り方を理解した上でケアにあたっている事もあり、そういった関係を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人からの要望があった際には、家族様へお伝えし家族様との絆を感じていただけるようにスタッフ一丸となり支えていける関係を築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人との普段の会話などもしっかりと聞きとる中で、家族様からお話を伺いながらできる限り関係が途切れないように支援していけるように努めている。	家族支援で馴染みの店に出掛ける事がある。現在コロナ禍で家族等の面会は自粛中であるが、ホームでは、スカイプによる自宅からのWeb面会を実施し、利用者には驚きとともに中々好評である。また、不慣れな家族にはホームの庭先でソーシャルディスタンスを保ちながらの面会を容認したりと馴染みの人との関係が途切れない様に積極支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは、利用者様同士の関係性を把握した上で孤立する方がいらっしゃらないように支援を行っている。また、利用者様同士も気づかいの言葉などを掛け合える様な関係を築けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、可能な限り相談・支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を大切に生活していただけるよう、可能な限り努めている。	ホームでは利用者一人ひとりの意向を大切にすることを心掛けており、居室担当職員が「24時間シート」を作成し、ケアの参考として活用している。利用者の「イタイ」という表現や感覚にも色々な訴えや症状が隠されていると考え、このような意向の把握が困難なケースにも、利用者寄り添い意向の真偽を探りながら根気よく対処している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段話される内容やご家族様からの聞き取りなどを行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の生活の中でしっかりと状況を確認しながら現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス・担当者会議にて、日々の変化からの気づきや意見・アイデアを出してもらい介護計画作成を実施できるように努めている。	入居前の本人・家族の希望や意向、居宅ケアマネージャー・施設・病院等のデータによるアセスメントを基にホームでの最初の介護計画書を作成している。入居後は担当職員の寄り添いによる利用者の各種記録や管理者・医療関係者の意見やアイデアを持ち寄り、カンファレンスや担当者会議にて検討を行い、現状に即した介護計画作成に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ間での気づきも多くあり、個別記録・送りなど密に行い、介護計画の見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時によっては、多少のズレなども生じるが都度確認を行いながら、柔軟な支援やサービスの多機能化ができる様に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	茨木市ケア倶楽部を活用し、以前よりは地域資源の把握を行えているがコロナウイルスの事もあるので現状満足いく活用とまでは至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	代表がかかりつけ医であり、コロナ渦であっても週2回の往診で都度適切な医療を受けられるように支援を行っている。状態の変化があった場合は、すぐにご家族様への報告も行っている。	本社代表が医師でかかりつけ医として週2回往診している。訪問診療以外に、利用者・職員との意思疎通を図るための往診(無料)が含まれており、利用者の体調変化への迅速な対応や必要に応じ他科への受診も勧めている。他科受診は家族対応を基本とするが、ホームでも臨機応変に支援している。なお、家族支援による他科受診の情報は共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者・スタッフ間において日々連携する中で、ナースへの報告・相談も必要に応じて適宜行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院者がいる場合は、病院関係者とも密に連絡が取れるよう努め、早期退院に努めている。現在、入院者はいない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期に関する説明を入居契約段階で実施している。現在、重度化には至っていないが大きな状態変化があった場合には十分な説明を行っていくようにしている。	入居契約時に説明を行い、家族等の同意を得ている。重度化し終末を迎える時点で、家族と医師等との話し合いで随時対処することになっている。3月に終末期対応の必要に遭遇したが、利用者は無事に回復を見た。これを機に看取りの内部研修を行い、大部分の職員が日常のケアと看取りケアの本質について学んだことが各職員の研修記録で確認できた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアル等の設置を行い、周知を図る。今後もマニュアル等を元に定期的に研修等を設け実践力を身に付ける努めたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアル等を設置し、定期的に避難訓練の実施を行っている。	年2回の避難訓練(夜間想定も含む)は実施しており、台風時等の備えも出来ている。開設して2年半、地域との協力関係は今後の課題とする。備蓄品・防災グッズについて、保管場所の関係で見直しを検討中である。	2階に在籍する複数の児童・生徒との合同訓練、想定外の災害頻出への対応策の見直し、利用者状態に応じた備蓄品・防災グッズの検討を望む。地域防災会議等への参加など、地域情報の取得と活用に期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権擁護・虐待防止委員会の実施を行い、グループホーム全体で現状の把握を行い、普段の声掛けやケアの中で不適切なものはないかなど、カンファレンス時に問いかけてりしながら不適切ケアがあった場合にはすぐに対応できるよう努めている。	のんびりと自由に暮らす第二の「家」での共同生活は、一人ひとりの生活歴・職歴からの個性を理解しての対応に不適切が生じていないか、研修や話し合いなどで適宜・適切に対応している。呼びかけは、「〇〇さん」と名字で行っているが、ある利用者の場合、家族の同意を得て、勤務時の周りからの呼ばれ方に変更したところ、困難事例が解消した事例がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアプランを元に、ご本人の希望や意向の表出を行い、自己実現・自己決定の支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人自身の性格や生活リズムなど、その人のペースを大切に希望に沿い支援ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身では難しいかたについても、モーニングケアの際など一緒に鏡を見て髪をとかしたり、髭を剃るなどその人の意向に沿いながら支援を行う様努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の食事の準備や食事レクなどの際には、利用者様へ一緒に行っていたけように声掛けし促すよう努めている。現在は、コロナウイルスの影響もある為自粛傾向ではあるも、全くしてもらわないではなくしっかりと感染対策を行い実施していただいている。	チルド状態での配食を利用し、利用者も盛り付けを行う食事風景が観察された。行事食・好みの外食・誕生日の1:1での外出兼外食など、コロナ禍が落ち着いたら再開したいとしている。職員は弁当持参だが、検食での意見は業者に伝え改善を求めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月初に、体重測定の実施。3カ月に1度の血液検査などを実施する中で状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の状態を把握しながら、適宜声掛け等行いながら実施していただいている。また、歯科往診の際に口腔ケアに必要な情報を確認している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表への記入を行い、その人のリズムや間隔の把握に努め、自立に向けた支援を実施。	失敗があるから、失敗が多くなったからオムツではなく、失敗しても尿意や便意があることを重要視して、その時の適切な対応で自立への支援に繋がるよう努めている。トイレの意味が理解できない人が、便座に座ることの習慣づけで、改善できた事例がある。リハビリパンツやパット使用者はいるが、オムツ状態の人はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	現在、コロナ渦の中で運動量の低下などもあるので施設内を散歩するなどして適度な運動を行ったり、便秘の改善が見られない場合にはDr・NSへ報告相談し、状況に応じて下剤を使用し排便コントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限りその人の希望やタイミングにて支援を行えるように努めている。	週2回を基本としている。重度化しても、座位が保てる間はリフト(椅子式)で湯船に浸かる心地よさを保持したいと努力している。同性介助を実施している。父の日には入浴剤やマッサージの楽しみがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、安眠されると昼夜逆転などの懸念もある為、昼寝・夕寝などその人の体調や状態に合わせて実施できるよう支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく処方があった場合など、薬情をユニットにも保管し各スタッフが把握に努めている。また、降圧剤・利尿剤などの服用開始の際には副作用などの症状伝え様子観察できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現在はコロナウイルスの影響もあり、満足いく支援は実施できていないがご本人のお誕生の月にはご本人の意向確認を行いご家族様協力の元楽しんでいただけるよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り、外出支援に努めているがコロナウイルスの影響もあり思う様な支援には至っていない。ユニット毎の玄関を使用し、庭先に出てお花を楽しむなどの支援は適宜実施できている。	従来は、近在の公園(バラ園、梅園)での季節の花見や希望の場所への遠出(南京町、万博公園など)、近隣の散歩などを行っていたが、コロナ禍の外出自粛で一時中断している。現在は、庭先での光や風、季節の感覚を大事にしたいと工夫している。ユニットをつなぐ廊下が程よい歩行訓練の場所となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お小遣いを所持されている方もいらっしゃるがコロナウイルスの影響で自身で買い物へ行きその方の希望通りの買い物などへは行けていない状況。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様へも確認をし、可能な方に関してはある程度自由にやり取りをしていただけるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の部分に関しては、生活リハビリの環境として一緒に掃除をしていただく事で生活感を取り入れるよう支援している。また、季節感に関しては月変わり居間の飾りつけなどを作成し飾りをする事で感じていただけよう支援に努めている。	1階ホールから左右(南北)に分かれての2ユニットが自由に往来できる一つの廊下で繋がり、各ユニット夫々に暮らしを彩る設えで落ち湯いた雰囲気がある。わずかに狭い食堂・居間は、テーブルや家具の配置で工夫され、採光も良く不快さは感じない。その他の共用空間も清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部がやや狭いこともあり、独りになれるような場所は現状設ける事はできていない。居室＝家という認識で一人になりたい方や気分を落ち着かせる為には自室を利用されている方もおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の調度品に関しては、入居前に使用していた物などを持ち込んでいただいたり、馴染みの物を置く事で居心地よく過ごしていただけるよう工夫を行っている。	各ユニット、9室のうち2室は畳敷だが、夫々に持ち込んだ調度品や装飾品で整えられ、男女差はあるが個性が感じられる、居心地の良さそうな居室となっている。各入口に手製のリース(寄贈)に2階の子供たちが作った板状の飾りが供えられている。 (注:コロナ禍でユニットを見学を許可された調査員は、1名に限定された。)	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	やや、狭い部分もあるが狭い事を活かし導線の確保などもしやすい為安全かつできるだけ自立した生活に繋がるよう支援が行えている。また、トイレの場所などもわかりやすく表記する事で自立した生活に繋がっている。		